



CITY OF NAGASAKI

メッセージ

このたび、「ヒロシマ・ナガサキ広場」において開催されます祈念碑除幕式に際し、長崎市民を代表してご挨拶を申し上げます。

1945年8月9日午前11時2分、長崎は原子爆弾により破壊されました。数千度もの熱線と爆風、人体組織を細胞レベルから徹底して破壊する膨大な量の放射線により、一瞬にして街は廃墟と化し、7万4千人の尊い生命が奪われました。死をまぬがれた7万5千人の方々も心身に癒すことのできない傷を負い、65年が過ぎた現在も多くの方々が放射線の後障害に苦しんでいます。

戦争の記憶が次第に薄くなり、戦争を知らない世代が多数を占めるようになった今日、戦争・被爆体験を語り継ぎ、平和を再認識することは非常に重要なことでもあります。そのような意味から、「ポツダム・ヒロシマ広場をつくる会」の皆様の取組みは、大変意義深いことであると思います。

祈念碑には、原爆落下中心から約800メートルに位置する山王（さんのう）神社から寄贈された被爆石が埋め込まれるとお伺いしております。本日、除幕される祈念碑をとおして、多くの人々が長崎の被爆の実相や核兵器の非人道性について理解を深めてくださることを願っております。

これからも、核兵器のない世界の実現をめざして、ともに力を尽くしてまいりましょう。「ポツダム・ヒロシマ広場をつくる会」の更なるご発展とご関係の皆様のみますますのご健勝とご多幸を心から祈念いたします。

平成22年7月

田上 富久

長崎市長 田上 富久